

令和7年6月25日 歴史研究会

歴史研究プロジェクト
リーダー 西岡 力

発表要旨

「韓国の政治混乱と歴史認識問題—李在明政権下の日韓歴史問題」

李在明は過去に「反日反韓史観」（親日派が政権の中枢を握っている韓国は建国当初から汚れていたという歴史観）を繰り返し口にしてきたが、大統領当選後は反日発言を控えている。それどころか、選挙中では自分の政治路線を中道保守だとし、実用外交を強調し、日本の防衛力増強にも賛成すると発言した。どちらが本心か分からない。

李在明は大統領選の公約で、日米韓の協力緊密化を掲げた。歴史認識問題による日韓関係悪化を回避しようという姿勢が見えるが、この中には強制動員・日本軍「慰安婦」関連資料構築拡大の項目が盛り込まれている。加えて、被害者に対する人権侵害と名誉毀損行為禁止明示および処罰根拠を備えるとも言及している。

日本政府のとるべき姿勢は、①歴史問題に関して新たな謝罪はしないこと、②歴史的事実として日本に不法はなかったことを明言すること、③国際社会での歴史的眞実発信などを民間と協力して行うことである。